

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査結果と分析

新潟県立村上中等教育学校

平成 30 年度の全国学力・学習状況調査が 3 年生を対象に 4 月に実施されました。本校の結果を見ると 5 項目全てで平均正答率が、全国・新潟県を大きく上回っています。以下、各教科の分析です。

		生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
国語A 主として知識	新潟県立村上中等教育学校	81	27.7 / 32	86
	新潟県(公立)	17,907	25 / 32	77.0
	全国(公立)	966,764	24 / 32	76.1
国語B 主として活用	新潟県立村上中等教育学校	81	6.9 / 9	77
	新潟県(公立)	17,889	6 / 9	62.0
	全国(公立)	966,786	6 / 9	61.2
数学A 主として知識	新潟県立村上中等教育学校	81	30.1 / 36	84
	新潟県(公立)	17,885	24 / 36	67
	全国(公立)	966,969	24 / 36	66.1
数学B 主として活用	新潟県立村上中等教育学校	81	9.6 / 14	68
	新潟県(公立)	17,886	7 / 14	47
	全国(公立)	966,908	7 / 14	46.9
理科	新潟県立村上中等教育学校	81	20.7 / 27	76
	新潟県(公立)	17,861	18 / 27	66
	全国(公立)	967,188	18 / 27	66.1

〈成果と課題〉

【国語】

平均正答率は、国語Aで86.0%、国語Bで77.0%と、いずれも全国・新潟県を大きく上回っている。

A問題については、基礎的・基本的な内容がしっかり身につけていることが分かる。特に、「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、発言の意図を把握する能力は高いといえる。しかし、「書くこと」について正答率が7割、「伝統的な言語文化」について正答率が3割の問題があった。複数の意見を的確にまとめ、意図をよりよく伝えるべく適宜加筆するなどの指導を重視するとともに、「伝統的な慣用表現」等日本の言語文化についても理解を深めて行く。

B問題についても、「書くこと」の正答率が4割であった。自分の意図を他者にどう表現し伝えていくかについての指導を充実させていく。

【数学】

平均正答率は、数学Aで84.0%、数学Bで68.0%と、いずれも全国・新潟県を約20%上回っている。

A問題では、「資料の活用」及び「数と式」「図形」領域の正答率が高く、数学的な技能はよく身につけていることが分かる。しかし、「関数」領域についての正答率が76.4%であった。一次関数の意味の理解や y の増加量を求めることについて、より理解を深める必要がある。

B問題では、どの領域も7割程度の正答率であり、領域による差は見られない。おおむね基礎・基本がしっかり定着していることが分かる。しかし、理由や方法を説明するなど「記述式」の問題については正答率が54.1%と低い。基礎・基本の力を活用する力を高めて行かなければならない。

【理科】

平均正答率76%と全国平均より約10%上回った。知識に関する問題が正答率77%、活用に関する問題が正答率76%となり、全体的に基礎・基本が身に付いてきたと考えられる。分野別に分析を行うと、物理84.3%、生物86.6%と高い正答率になっているが、それと対照的に地学が64.9%と低い正答率になっている。

観点別では、観察・実験の技能の正答率が69.4%と低い。特に、生物を用いて食塩水の濃度を取り扱う問題での正答率が低く、実験の目的を的確にとらえ論理的に説明する力が不足していると考えられる。

対策としては、実験の最初に予測を立てさせ、実験の目的を科学的に考えさせるとともに、結果をグループで討論させることで、論理的に思考・判断し、表現力を育む。また、課題も基礎・基本を問うワークやプリント以外にも、自由研究や探求型レポート等を課し、プレゼンテーションの場を設定していく。